

平成 27 年度第 3 回
杵島地区新高校
設置準備委員会
(資料)

平成 27 年 10 月 23 日
佐賀県教育委員会

目次

	頁
資料 1	新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 （第1次）第2回新高校設置準備委員会報告まとめ 1
資料 2	めざす学校像 3
資料 3	新高校の学科構成 5
資料 4	校舎制 17
資料 5	新高校設置準備委員会設置要領 26
資料 6	杵島地区新高校設置に向けた検討体制 28
資料 7	杵島地区新高校設置準備委員会委員構成 29

資料1 新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）

第2回新高校設置準備委員会報告まとめ

1 開催日時・場所等

地区及び再編対象校	開催日時・場所	委員
杵島地区 ・ 白石高校 ・ 杵島商業高校	平成27年 7月27日(月) 10時～11時45分 白石高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 12人 県教育委員会関係委員 8人
鹿島地区 ・ 鹿島高校 ・ 鹿島実業高校	平成27年 7月27日(月) 15時～16時40分 鹿島高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 11人 県教育委員会関係委員 8人
嬉野地区 ・ 塩田工業高校 ・ 嬉野高校	平成27年 7月28日(火) 15時～16時40分 塩田工業高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 8人 県教育委員会関係委員 8人
伊万里地区 ・ 伊万里農林高校 ・ 伊万里商業高校	平成27年 7月31日(金) 15時～16時40分 伊万里商業高校 会議室	学校関係委員 4人 地域関係委員 7人 県教育委員会関係委員 8人
唐津地区 ・ 巖木高校	平成27年 8月17日(月) 9時30分～11時 巖木高校 同窓会館	学校関係委員 3人 地域関係委員 5人 県教育委員会関係委員 9人 太良高校 山口校長

2 主な意見等

地区	主な意見等
杵島地区	<ul style="list-style-type: none"> 「めざす学校像」について、今ある教育目標などを足し合わせるだけではなく、新しい学校にプラス ができるか。 新高校がこの地区で果たす役割を確認して、担わせるものを明らかにするとわかりやすい。 2校を再編する中で、特色や魅力につながるものを精選し、新しい学校に受け継がせることが重要である。 多様化する社会に対応できるよう、いろいろなコースを作って人材を育成してほしい。
鹿島地区	<ul style="list-style-type: none"> 新しい学校に子どもたちが誇りを持つことは大切なので、「郷土を愛し、母校に誇りを持つ」というようなフレーズを入れてほしい。 選挙権年齢が18歳に引き下げられるので、社会の一員としての自覚に関する文言は必要ではないか。 田澤先生の理念である「人格の完成をめざし人間教育の振興」という文言は残すべきである。 新高校の学科構成については、現在の産業構造や地域産業も考慮する必要がある。そういうデータが欲しい。

地区	主な意見等
嬉野地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「めざす学校像」の内容として、1つは知・徳・体のバランス、2つ目は佐賀の良さを学び、地域と連携する学校であること。これらに加えて、地元企業のグローバル化等に対応し、国際社会に貢献できるような人材育成という視点も大事である。 ・ 「地域」と「グローバル」という2つの視点を入れてほしい。 ・ 「めざす学校像」の示し方としては、箇条書きで示した方がわかりやすくてよい。 ・ 新高校の学科は、専門学科として残すべきである。
伊万里地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「めざす学校像」の3つの案は、どれも基本的に「これからやっぺいこう」という姿勢が示されている。 ・ 「めざす学校像」は、学校の存在意義、この地域にこの学校が存在する意義というような、大きなものであり、これを明らかにした後で教育目標などを作っていくことになる。 ・ 「めざす学校像」案の、「至誠」は伊万里農林高校に、「礼節」は伊万里商業高校に由来する言葉である。これに両校共通の「勤労」という言葉がある。固い言葉ではあるが、歴史を感じさせる言葉なので、これらの言葉を生かしたい。 ・ 学科について話をする際、地域ニーズを把握するため、地域の産業界の方をこの委員会に呼んで意見を聞いてはどうか。
唐津地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太良高校では、担任や副担任の他に、学習支援員や地域連携の支援員、学校設定科目に関わっていただいている特別非常勤講師など、外部の方の関わりが多い。学校だけでは難しい面があり、地域との関係は大事だと思う。 ・ 「めざす学校像」としては、ポイントを箇条書きにした案の方が、具体的で良い。 ・ 「めざす学校像」に、現在の校訓や三省も生かして欲しい。 ・ 不登校経験や発達障害のある生徒など、可能性を伸ばせなかった子どもたちを地域と一緒に育てる、そういうふうに関心を持って一人一人の生徒を丁寧に育て、社会に出していくという姿勢が伝わる「学校像」であれば、と思う。

資料2 めざす学校像について

《めざす学校像（案）》

夢を育み、夢の実現へ邁進する学校

知・徳・体の調和のとれた、健全な人格の形成をめざす学校

地域に愛され、信頼される学校

グローバル化に対応できる力を養成する学校

生徒の目標を高め、目標実現の支援に努めることを学校の基本スタンスとする。
支援を行う中で、生徒の可能性を最大限に引き出し、「健全な人格の形成」「地域への貢献」「グローバル社会での活躍」を果たす基礎を形成する。

上記目標を達成するための具体的取組については、今後、学科構成や校舎制の在り方等、新高校の中身を検討する際に併せて考えていく。

《参考資料》第2回設置準備委員会への提示案及び委員からの意見

第2回設置準備委員会提示案

《めざす学校像（案）》

【A案】 知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健全な人格の育成をめざす学校
生徒の夢が実現できる学校
地域から愛され信頼される学校

【B案】 地域社会に信頼される学校
生徒の夢を育み、成長させる学校
規範意識や自尊感情を高め、感謝や思いやりの心を育てる学校
授業と部活動に情熱を傾け、確かな学力と逞しい心と体を鍛える学校
国際社会で活躍できる、広い視野を持った生徒を育成する学校

【C案】 熱い志とともに、誠実さや社会的規範意識を備えた品位ある（健全な）人格形成を促し、基本的な学力・教養と、さらなる専門的知識・技能を獲得し、地域社会及び国際社会に貢献できる有為な人材の育成に努める学校。

第2回設置準備委員会での意見

- ・ 地域の中で人材を育てる、もう一方で、グローバルということで、世界に羽ばたくような人材を育てるといふことなのか、ということをも明確にするといふと思う。
- ・ 生涯現役システムを作るくらいシステムづくりが必要ではないかと思う。そういうスパンでものを考えるシステムがあるといふ。
- ・ プロフェッショナルな人材育成をしてほしい。
- ・ 実業系には社会に出て即戦力となる多様な人材を育ててほしい。普通科には話題性のある学校に行ける生徒を育ててほしい。中学生が新高校に行きたくなるような話題性のある人材を作してほしい。
- ・ 合併してよかったと言われるためには、一級の学び手、一級の職業人になれる、そこを入れなといふけない。
- ・ 大きな学校としての狙いとその目的を絡める中で、実際に子供たちが社会とつながる、ここのところが共通する部分といえる。
- ・ 特色とか魅力ある学校でないと生き残れないのではないかと。両校がやってきた学力の面、スポーツの面、その中から精選して、2～3の柱を立てて、現在から新しい学校にどう受け継がせるか、ということが生き残ることにつながることになる。

資料3 新高校の学科構成について

1 新実施計画（第1次）における新高校の学科についての基本的な考え方
 「現在の学科を基本として、地域の意見も聞きながら検討する。」こととしている。

2 杵島地区新高校学科構成について

(1) 平成27年度の学科の状況

学校	学科	募集定員	学級数
白石高等学校	普通科	160人	4
杵島商業高等学校	商業科	商業科	2
		情報処理科	1

(2) 募集定員の見込

(平成27年度)

白石高等学校 160人(4学級)
杵島商業高等学校 120人(3学級)

(平成30年度)

杵島地区新高等学校 200人(5学級)



(3) 学科構成パターン

平成30年度				
パターン	学科	小学科・コース	募集定員	学級数
パターン①	普通科		120人	3
	商業科	商業	40人	1
		情報処理	40人	1
パターン②	普通科	普通コース	80人	2
		普通系新コース※1	40人	1
	商業科	商業	40人	1
		情報処理	40人	1
パターン③	普通科		80人	2
	普通系新学科※2		40人	1
	商業科	商業	40人	1
		情報処理	40人	1
パターン④	普通科		80人	2
	商業科	商業	80人	2
		情報処理	40人	1
パターン⑤	普通科		80人	2
	商業科	商業	40人	1
		情報処理	40人	1
		新小学科	40人	1

※1普通系新コースとは、国際コース、文理コース、体育コース等である。

※2普通系新学科とは、理数科、国際科等である。

学科構成を考える際の視点

【普通科】

- ・ 大学進学率の向上(国公立大学・難関私大合格者の増加) → 「文理総合型クラス」
- ・ 医療、看護、福祉系列への進学希望者への対応 → 「進路希望別クラス編成(医療・看護・福祉系クラス)」
- ・ その他の専門学校(主にビジネス系)への進学希望者への対応 → 「情報処理科との総合選択制」
- ・ 煩雑な選択教科、授業展開の整理

【商業科】

- ・ 高い就職率の維持・増進 → 「キャリア教育」の更なる充実
- ・ 先進的な取組み → 「スーパープロフェッショナルハイスクール」等
- ・ 情報処理科の低倍率の改善 → ・ 「アピールポイント」の設定
 - ・ 「くくり募集」
 - ・ 「学科改編」

【共通】

- ・ グローバル化への対応 → 「国際科(コース)」、「国際ビジネス科(コース)」等の設置
「第2外国語(中国語、韓国語等)」の履修
「スーパーグローバルハイスクール」
- ・ 地域連携 → 《後掲》『「地域創生」人材育成プロジェクト(地域コンサルタントの育成)」
徳島県立徳島商業高校(スーパープロフェッショナルハイスクールの取組)



新高校において、何を重点と考えるかによって、学科構成(及び各学科での取組み)が決定する。

3 全国的な取組の例

< 普通科等 >

- ハイレベルな学習機会や場の提供を行う普通系専門学科を設置
- (理数系) 理数、数理科学、応用数理、サイエンスリサーチ、メディカル・サイエンス
- (文理総合型) 京都こすもす(人文社会系統、国際文化系統、自然科学系統)
- (語学重視型) 国際文化、国際教養、国際コミュニケーション、国際文化情報
- (芸術スポーツ系) 芸術、芸能文化、体育、スポーツ健康科学
- グローバル人材の育成
- スーパーグローバルハイスクール(SGH)事業
- 国際バカロレア(日本語ディプロマ)認定に向けた取組
- 先進的な理数教育の実施
- スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業

例) 三重県立川越高校(国際文理科)

理系も含めて英語の能力や異文化への理解を高めた生徒の育成

躊躇せず交流する態度の育成

文理の各分野への知的関心を喚起する機会の充実

言語や文化が異なる人々と主体的に協働していくことのできる自立した社会人の育成

- ・ Mie SELHi 事業(川越高校の英語教育研究開発)を活用して、先進的な英語の指導方法等についての研究を進める。
- ・ 実用英語技能検定等の受験を指導し、英語の運用能力の向上を図る。
- ・ 海外スタディーツアー等を実施し、異文化体験を通じて、グローバルな視野を育成するとともに、実践的英語技能の伸長を図る。

<専門学科>

社会のニーズに応じた実践的な職業教育

スーパープロフェッショナルハイスクール(SPH)事業(再掲)

例) SPH指定校取組事例

【商業】徳島県立徳島商業高校

Deep in Tokushima ~徳商版「地域創生」人材育成プロジェクト~

- ・ 地域コンサルタントの育成(地域のことをよく知り、様々な課題に対して柔軟に対応できる人材の育成)
- ・ 観光ガイド・商品開発力を持った人材の育成(地域の魅力を創出し、プロデュースできる人材の育成)
- ・ Glocal プロデューサーの育成(地域の魅力を世界に向けて発信できる能力を有し、人と人、企業と企業のネットワークを構築することができるグローバルなプロデューサーの資質を持つ人材の育成)

【商業】岐阜県立岐阜商業高校

『会社設立・経営を通して実践力・創造力・起業家精神を身に付け、グローバルに活躍するビジネスリーダー育成プログラム』

~Be the CEO Project(「生徒全員が社長」プロジェクト)~

- ・ 高校生が会社の設立・経営活動に主体的に参画し、生徒全員が経営者としての素養を育成する実践型ビジネス教育プログラムを実施する。
- ・ 海外の商業高校と連携し、ネットモールを運営するとともに、ビジネスの諸活動で活用できる外国語によるコミュニケーション能力を身につける。
- ・ 情報サービス産業の振興を支える高度な専門性を有したIT人材を育成する。
- ・ 商品開発、商業デザイン、デジタルコンテンツ制作による知的財産教育を推進する。
- ・ 産業界のニーズを反映させた教育プログラムを開発・実施するとともに、産学官の連携による生きた知識を習得し、商業教育の更なる専門性の深化を図る。

《参考資料》 武雄・杵島地区の学科の状況

1 配置

武雄・杵島地区の学科及び募集定員

普通科 440 人（11 学級規模）

（白石高校 160 人、武雄高校 280 人）

専門学科 440 人（11 学級規模）

（商業科：杵島商業高校 120 人、農業科：佐賀農業高校 120 人、工業科：有田工業高校 200 人）

【普通科及び商業科（商業系列を含む）の全県配置】



2 武雄・杵島地区の高校別志願状況

地区	学校名	H22入学生			H23入学生			H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生		
		9月	11月	後期	9月	11月	後期	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
武雄 杵島 地区	武雄	1.09	1.01	1.02	1.13	0.95	0.98	1.05	1.12	0.91	1.32	1.20	1.25	1.15	1.14	0.94	1.13	1.15	1.13
	白石	0.94	0.91	1.14	0.89	0.99	1.03	1.01	0.96	1.04	0.87	0.83	1.05	0.81	0.86	0.85	0.87	0.90	0.97
	佐賀農業	1.19	1.14	1.06	0.92	0.89	1.03	1.74	1.51	1.52	1.35	1.45	1.21	1.23	1.25	1.30	1.36	1.26	1.18
	有田工業	1.47	1.33	1.25	1.10	1.12	1.10	1.38	1.31	1.20	1.15	1.17	1.09	1.23	1.19	1.03	1.14	1.11	1.20
	杵島商業	0.79	0.98	1.09	0.78	0.93	1.14	0.87	0.97	1.16	0.70	0.87	1.08	0.99	1.01	1.09	0.64	0.78	1.00
西部学区計		1.07	1.07	1.10	1.03	1.03	1.07	1.08	1.08	1.09	1.07	1.08	1.13	1.07	1.06	1.05	1.02	1.01	1.05

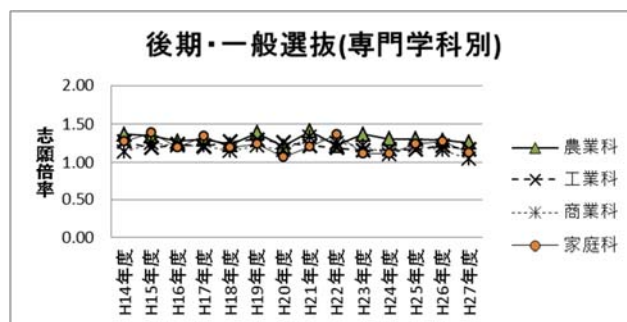
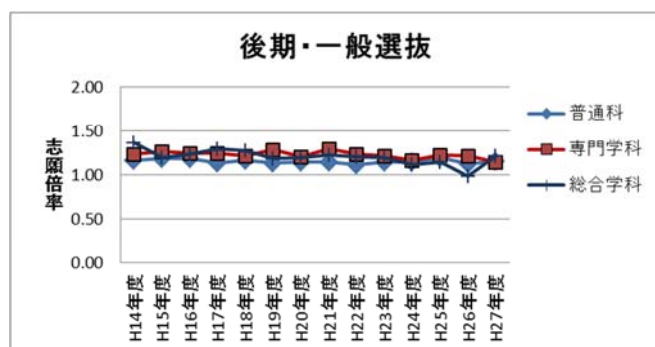
※網掛けは1.00倍未満

※後期(または一般)倍率は、志願変更後の倍率である。

【参考1 県全体の学科別志願状況】

後期・一般	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
普通科	1.11	1.14	1.14	1.19	1.12	1.15
専門学科	1.23	1.21	1.16	1.22	1.21	1.14
農業科	1.22	1.37	1.31	1.31	1.29	1.26
工業科	1.19	1.16	1.17	1.17	1.22	1.17
商業科	1.25	1.22	1.10	1.22	1.16	1.05
家庭科	1.37	1.11	1.11	1.24	1.27	1.13
総合学科	1.20	1.19	1.11	1.14	0.98	1.21
県立全体	1.16	1.17	1.15	1.20	1.15	1.15

理数科及び芸術科は普通科に含む。



【参考2 商業科の小学科別志願状況】

大学科	小学科	H22入学生			H23入学生			H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生		
		9月	11月	後期	9月	11月	後期	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
商業		1.28	1.24	1.25	1.25	1.25	1.22	1.24	1.20	1.10	1.16	1.19	1.22	1.20	1.14	1.16	1.11	1.10	1.05
くくり募集 は商業系 に含む	商業系	1.36	1.27	1.24	1.27	1.30	1.27	1.24	1.23	1.10	1.18	1.20	1.21	1.29	1.19	1.18	1.13	1.14	1.09
	情報系	1.02	1.14	1.20	1.20	1.09	1.07	1.21	1.13	1.09	1.06	1.13	1.25	0.90	0.81	1.08	1.04	0.95	0.93
	その他	1.20	1.30	1.68															

※網掛けは1.00倍未満

※後期(または一般)倍率は、志願変更後の倍率である。

3 武雄・杵島地区の中学生の進路状況

武雄・杵島地区の中学生の進路状況を分析すると、約8割が県内公立高校に進学しており、普通科と専門学科がほぼ4割ずつである。地域としては約7割の生徒が、地元である旧西部学区へ進学している。

【上段：人数】

【下段：卒業者に対する割合(%)】

武雄・杵島地区 中卒者進路	全日制			定時制 ・ 通信制	高専 ・ 特別 支援	就職等 左記 以外	卒業 者数
	県内 公立	県内 私立	県外 公私立				
平成23年 3月卒	927	98	14	12	19	40	1,110
	83.5	8.8	1.3	1.1	1.7	3.6	
平成24年 3月卒	932	158	21	26	22	28	1,187
	78.5	13.3	1.8	2.2	1.9	2.4	
平成25年 3月卒	918	155	26	17	22	13	1,151
	79.8	13.5	2.3	1.5	1.9	1.1	
平成26年 3月卒	908	139	23	15	18	16	1,119
	81.1	12.4	2.1	1.3	1.6	1.4	
平成27年 3月卒	855	141	20	8	17	24	1,065
	80.3	13.2	1.9	0.8	1.6	2.3	
5年集計	4,540	691	104	78	98	121	5,632
	80.6	12.3	1.8	1.4	1.7	2.1	

白石高校及び杵島商業高校への通学状況

両校とも、入学者の半数近くが地元の出身である。

単位：%

	旧東部	旧中部	旧北部	旧西部	県外等	
					うち杵島郡	
白石高校	0.5	9.2	0.4	89.5	45.0	0.4
杵島商業高校	0.4	23.0	0.0	76.5	44.0	0.2

注)平成23年～平成27年度の高校1年在籍者の出身中学校を基に、旧学区ごとの割合を示す。(各年度5月1日現在)

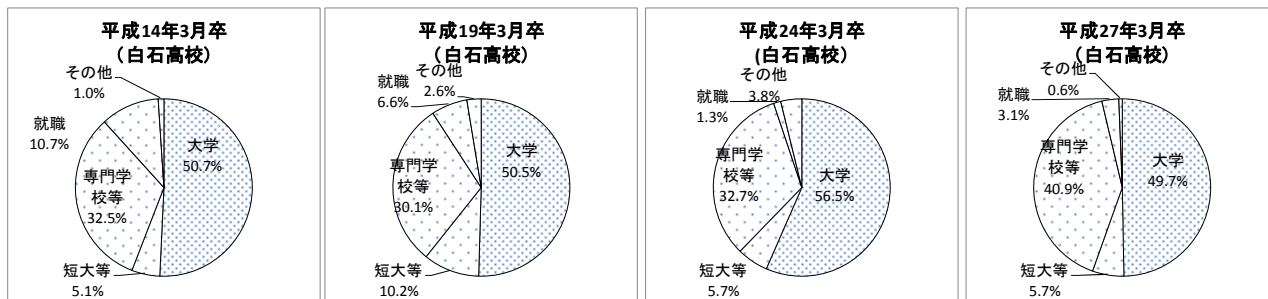
4 高校卒業後の進路状況

(1) 普通科

白石高校

- ・ 大学進学者の割合は、卒業生の約5割である。
- ・ 専門学校等への進学者が増加傾向である。多いのは、医療系で、専門学校進学者の7割近くを占めている。
- ・ 割合としては低いですが、就職者もあり、公務員が多い。

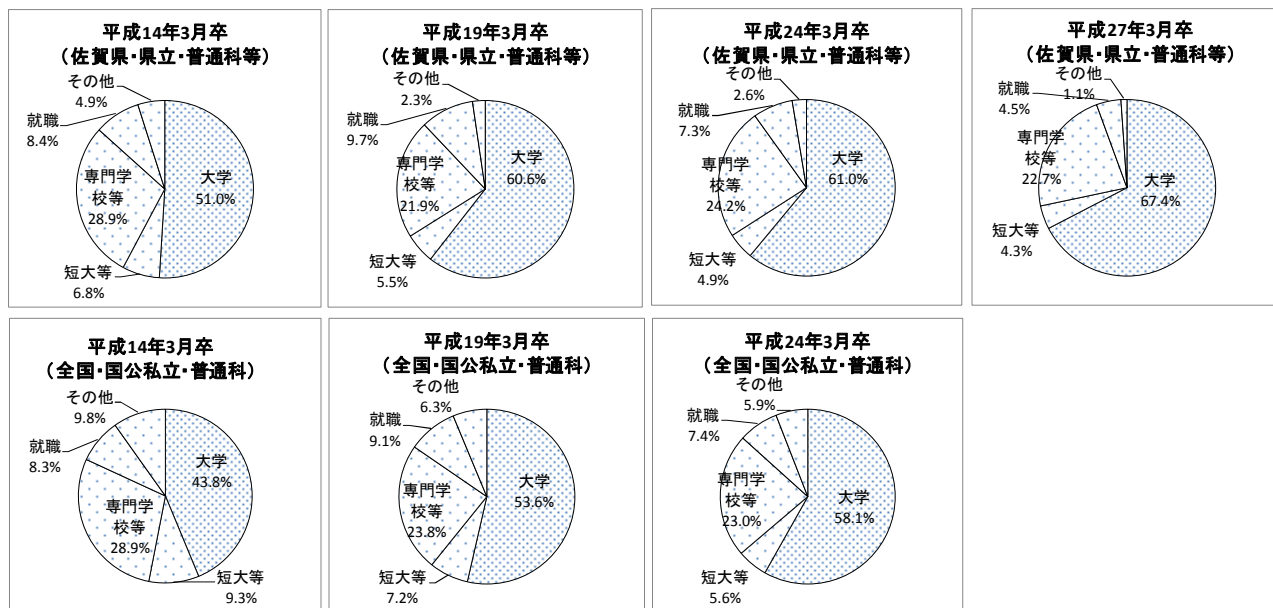
【白石高校卒業後の進路状況】



【参考 本県及び全国の普通科卒業後の進路状況

上段：佐賀県・県立・普通科等

下段：全国・国公立・普通科】

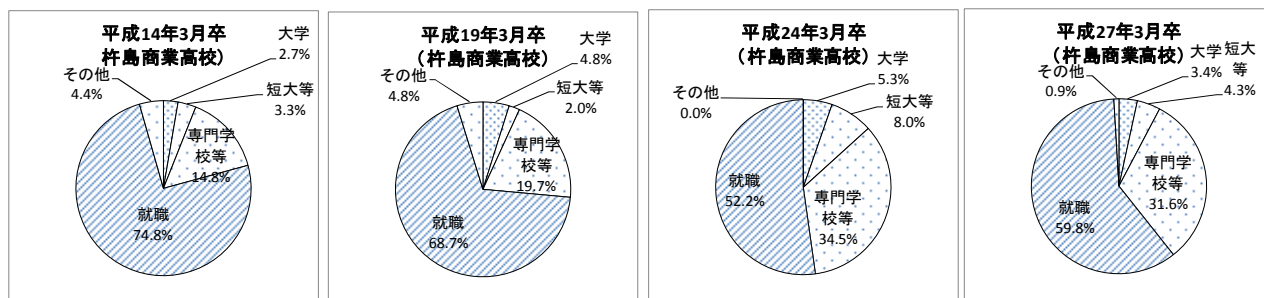


(2) 商業科

杵島商業高校

- ・ 進学者の割合が増加傾向である。これは、商業科の全国的な状況でもある。
- ・ 大学進学者の学部は、主に経済学部や商学部である。
- ・ 短期大学進学者については、幼稚園教諭や保育士を目指す生徒が多い。
- ・ 専門学校等の内訳としては、ビジネス系の他、医療系へ進学する生徒も多い。
- ・ 就職先を職業別に見ると、事務、販売、サービス関係の職業に就いた生徒が、就職者の約7割である。

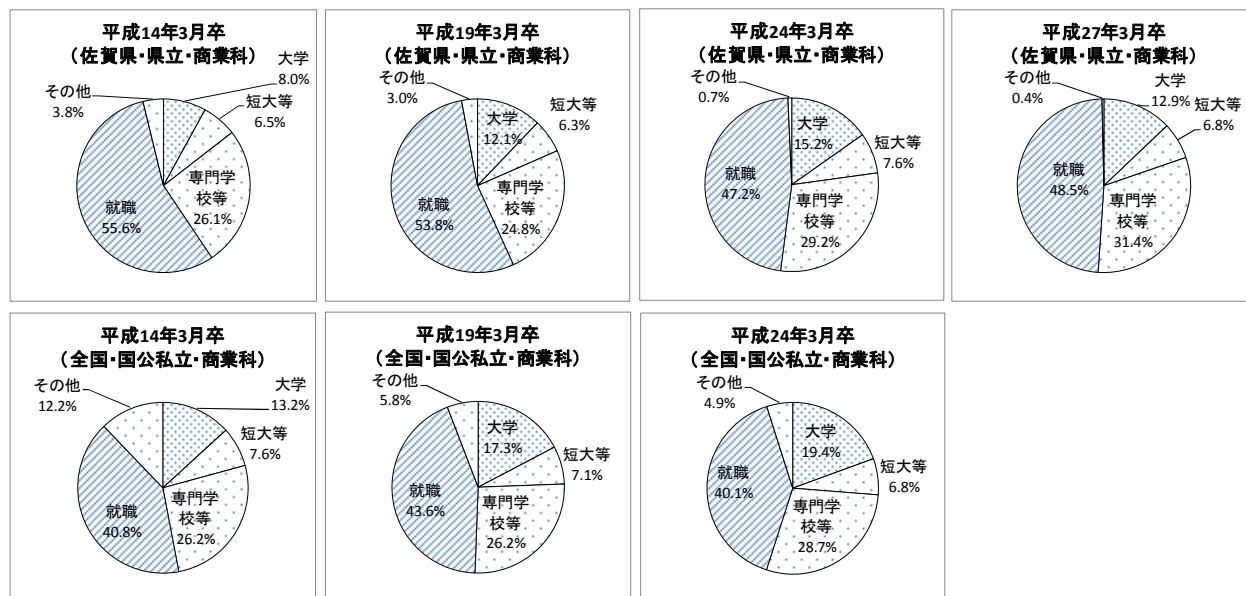
【杵島商業高校卒業後の進路状況】



【参考 本県及び全国の商業科卒業後の進路状況

上段：佐賀県・県立・商業科

下段：全国・国公立・商業科】



白石高校、杵島商業高校の卒後進路状況

【白石高校】

		大学	(うち国公立)	短期大学	各種 専門学校	職業能力 開発施設	就職	その他	卒業者計
H25.3卒	男	64	(16)	2	34	0	10	1	111
	女	45	(10)	8	29	0	1	2	85
	計 割合	109 55.6%	(26) (13.3%)	10 5.1%	63 32.1%	0 0.0%	11 5.6%	3 1.5%	196 100.0%
H26.3卒	男	46	(13)	1	29	3	1	4	84
	女	27	(3)	10	31	0	3	1	72
	計 割合	73 46.8%	(16) (10.3%)	11 7.1%	60 38.5%	3 1.9%	4 2.6%	5 3.2%	156 100.0%
H27.3卒	男	41	(12)	1	22	4	4	1	73
	女	38	(8)	8	39	0	1	0	86
	計 割合	79 49.7%	(20) (12.6%)	9 5.7%	61 38.4%	4 2.5%	5 3.1%	1 0.6%	159 100.0%

〈各種専門学校〉

		ビジネス系	医療・看護・ 介護系	その他	専門学校 計	卒業者計
H25.3卒	男		14	20	34	111
	女		19	10	29	85
	計 割合		33 16.8%	30 15.3%	63 32.1%	196 100.0%
H26.3卒	男	7	3	19	29	84
	女	0	15	16	31	72
	計 割合	7 4.5%	18 11.5%	35 22.4%	60 38.5%	156 100.0%
H27.3卒	男	7	9	6	22	73
	女	3	30	6	39	86
	計 割合	10 6.3%	39 24.5%	12 7.5%	61 38.4%	159 100.0%

- ・ 全体の50%～60%が大学・短大へ進学(そのうち12%～13%が国公立4年制大学)。
- ・ 専門学校進学者は全体の30%～40%。そのうち医療・看護・介護系の比率が高く、27年度はおよそ1学級分(40人)を占めている。

【杵島商業高校】

		大学	(うち国公立)	短期大学	各種 専門学校	職業能力 開発施設	就職	その他	卒業者計
H25.3卒	男	6	(1)	0	12	1	20	1	40
	女	1	0	2	29	0	43	0	75
	計 割合	7 6.1%	(1) (0.9%)	2 1.7%	41 35.7%	1 0.9%	63 54.8%	1 0.9%	115 100.0%
H26.3卒	男	5	(1)	1	11	1	29	0	47
	女	2	0	5	15	0	40	0	62
	計 割合	7 6.4%	(1) (0.9%)	6 5.5%	26 23.9%	1 0.9%	69 63.3%	0 0.0%	109 100.0%
H27.3卒	男	3	0	1	14	0	24	0	42
	女	1	0	4	23	0	46	1	75
	計 割合	4 3.4%	0 (0.0%)	5 4.3%	37 31.6%	0 0.0%	70 59.8%	1 0.9%	117 100.0%

〈各種専門学校〉

		ビジネス系	医療・看護・ 介護系	その他	専門学校 計	卒業者計
H25.3卒	男	5	2	5	12	40
	女	6	10	13	29	75
	計 割合	11 9.6%	12 10.4%	18 15.7%	41 35.7%	115 100.0%
H26.3卒	男	4	4	3	11	47
	女	1	8	6	15	62
	計 割合	5 4.6%	12 11.0%	9 8.3%	26 23.9%	109 100.0%
H27.3卒	男	4	8	2	14	42
	女	8	8	7	23	75
	計 割合	12 10.3%	16 13.7%	9 7.7%	37 31.6%	117 100.0%

- ・ 全体の60%前後が就職。
- ・ 大学進学者はそれほど多くないが、専門学校への進学者は30%前後いる。そのうち医療・看護・介護系が10%を超え、ビジネス系の専門学校進学者より多い。

5 学科の特色(現況)

普通科（白石高校）

1 学科の方針

（１）目標

- ・ 生徒個々の学力や学習状況を踏まえた上で、進路希望達成のため、一般的な教養はもとより、受験に必要な基礎学力の確立に努め、さらには発展的な知識の習得を図る。

（２）求める生徒像

- ・ 清く明るい豊かな心と自主自立の精神を持ち、創造性豊かで社会貢献をしようとする高い志を持った生徒
- ・ 文武両道のもと、学習活動・部活動・生徒会活動・ボランティア活動等に積極的に取り組むことができる生徒
- ・ 将来の「夢」を持ち、その実現に向けて切磋琢磨しながら心身の鍛錬に励むことができる生徒

2 教育体制

- ・ 2年次（文系3クラス、理系1クラス）
- ・ 3年次（国公立文系クラス、私立四大・公務員・専門学校クラス、看護・医療系クラス、国公立理系クラス）
- ・ 少人数クラス展開（1年：数学 2年：英語、数学 3年：英語、数学）

3 成果、特別活動等

（１）取得できる主な資格

- ・ 実用英語技能検定2級
- ・ 日本漢字能力検定2級
- ・ GTEC for students 600程度（英語検定2級に相当）

（２）特別活動等については、特になし

商業科（杵島商業高校）

1 学科の方針

（１）目標

『ビジネス実践力を身につける』
～即戦力となる社会人を目指して～

（２）求める生徒像

- ・ 商品開発やEビジネスなどのマーケティング活動に興味関心を持ち、実践的な学習に対し、自主的に取り組むことができる生徒。
- ・ ネットショッピングモール「がばいよか！きしま学美舎」などの体験活動を通じ、地域社会や経済社会に貢献しようと考えている生徒。

2 教育体制

- ・ 1年次商業科は80名を3クラス編成として、少人数指導を行い、高校の学習や生活に適應しやすい環境を整えている。
- ・ 2・3年次の専門教科（「簿記」や「情報処理」など）では少人数指導を行い、個別指導が行いやすい環境を整えている。
- ・ 2・3年次には専門教科内での選択科目を多く設定し、生徒の進路および興味関心に対応できるようにしている。
- ・ 3年次「課題研究」では『現場で磨くビジネス実践力』をテーマに掲げ、主に地域での校外実習など体験的な学習を多く取り入れることで、学習内容の充実を図っている。

3 成果、特別活動等

（１）取得できる主な資格 全商は全国商業高等学校協会主催の検定です。

- ・ 全商簿記実務検定 1級
- ・ 全商情報処理検定ビジネス情報部門 2級
- ・ 全商珠算・電卓実務検定 1級
- ・ 全商ビジネスコミュニケーション検定 など

（２）特別活動等

- ・ 生徒商業研究発表大会出場
- ・ ICTプレゼンテーション大会出場

情報処理科（杵島商業高校）

1 学科の方針

（１）目標

『ICT社会をリードする』

～使う・使いこなす・表現するプロフェッショナルを目指して～

（２）求める生徒像

- ・ コンピュータ関係に興味関心が強く、高度に使いこなすために必要な知識と技能を身につけ、高度資格取得に意欲的に取り組みたい生徒。
- ・ コンピュータを活用して、情報を表現し、広く外に発信することに興味関心があり、プレゼンテーション能力、クリエイティブ能力の育成に力を注ぎたい生徒。
- ・ ネットショッピングモール「がばいよか！きしま学美舎」など、実践的な電子商取引に興味関心があり、コンピュータを活用して積極的に地域社会で活躍したい生徒。

2 教育体制

- ・ 情報処理科単独の実習室を使い、情報関連科目では複数教員を配置することで学習内容の理解や技能の充実を図っている。
- ・ 1年次に情報関連科目「情報処理」4単位と「プログラミング」4単位について集中履修（前半に「情報処理」、後半に「プログラミング」）を行い、1年間で情報処理の基礎を着実に身につけられるよう工夫している。
- ・ 2・3年次には専門教科内または他教科との選択科目を多く設定し、生徒の進路および興味関心に対応できるようにしている。
- ・ 3年次「課題研究」では『現場で磨くビジネス実践力』をテーマに掲げ、主に地域での校外実習など体験的な学習を多く取り入れることで、学習内容の充実を図っている。

3 成果、特別活動等

（１）取得できる主な資格 全商は全国商業高等学校協会主催の検定です。

- ・ 全商情報処理検定ビジネス情報部門1級
- ・ 全商情報処理検定プログラミング部門1級
- ・ 全商簿記実務検定1級
- ・ 全商珠算・電卓実務検定1級
- ・ 全商ビジネスコミュニケーション検定 など

（２）特別活動等

- ・ 生徒商業研究発表大会出場
- ・ ICTプレゼンテーション大会出場

資料4 校舎制について

校舎制に関する検討課題

(1) 行事について

合同実施が望ましい行事

【例】式典、学校祭、修学旅行、高校総体壮行会、芸術鑑賞会、全校集会、学年集会等
行事の際の移動

【例】式典の場合は大型バスをチャーター（往復）し、一方の学校で実施（入学式・卒業式は生徒＋保護者）。終日あるいは半日実施の行事については、各自で会場へ集合

(2) 部活動について

部活動種目の見直し 新高校校内委員会で検討

活動場所の割り振り

移動生徒数をシミュレーション

部活動の際の移動

【例】 ・ 放課後にバスを3往復（部活動開始・終了時とその中間）させる。
・ 活動場所が帰路にあるものは、自転車や公共の交通機関等で各自移動させる。
・ 平日の合同練習を週3日とし、その日はバスを運行する（高校総体、新人戦前などはこの限りでない）。

(3) 職員配置・会議の在り方について

管理職の配置

【例】 ・ 学校長は曜日ごとに、それぞれの校舎で勤務する。
・ 学校長は一方の校舎に常駐し、もう一方の校舎に副校長を配する。

校務分掌主任の配置

【例】 ・ 分掌主任は一方の校舎にまとめる。
・ 分掌主任と副主任をバランスよく両校舎に分散させる。
・ 両校舎それぞれに分掌主任を配する。

会議の在り方

【例】 ・ 職員会議等は、どちらか一方の校舎において合同で実施する。
・ 職員会議等は、それぞれの校舎で実施する。（その場合、全管理職はどちらの会議にも出席する）。
・ 年度当初、学校祭、高校入試等に関する会議は合同、それ以外は校舎単独で実施する。
・ 運営委員会も職員会議に準じる。

(4) その他

- ・ 校務分掌の見直し
- ・ 校時の検討
- ・ 校舎間の連絡

《参考資料》他県の校舎制の事例

串本古座高等学校（和歌山県）

1 沿革

H20 串本高校（普通科、国際教養科）と古座高校が統合

古座校舎については、H20 年の統合の際、分校舎の存続期間についての明言が避けられたことから、今後数年の動向次第では分校舎の廃止・完全統合の可能性もある。

2 学科と募集定員・後期選抜の志願倍率

校舎	学科	H26 募集 定員（人）	志願倍率 （H26）	H25 の在籍者（人）		
				1年	2年	3年
串本校舎	普通科	120	0.87	285		
古座校舎	普通科	40	1.05	181		

（H26 和歌山県全体の倍率 全日制 1.01 一般選抜）

3 各キャンパスの状況 【キャンパス間の距離 9.2 km】

(1) 串本校舎（旧串本高校校舎）

住所 和歌山県東牟婁郡串本町串本 1522

設置学科

- ・普通科（情報コース、文理コース）

(2) 古座校舎（旧古座高校校舎）

住所 和歌山県東牟婁郡串本町中湊 370

設置学科

- ・普通科（国英数習熟度別展開）

4 卒業後の状況（平成 25 年度）

校舎	大学		短大		大学校	専門 学校	就職・その他
	国公立	私立	国公立	私立			
串本	/	/	/	/	/	/	/
古座	0	10	0	0	0	14	/

(1) 主な合格先

- ・ 私大・その他 大阪学院大、大阪商業大、岡山理科大、同志社女子大 等

(2) 主な就職先

- ・ データなし

5 部活動 体育系 9(8) 文化系 9(9) 計 18(17) ()は古座校舎

6 職員数 4学級、160人/学年 - 教員数 47人

《学校概要》

- ・ 生徒減に応じた高校再編の一環として校舎制を導入。（再編統合は地域、同窓会、保護者等反対が多かった）
- ・ 職員数は教諭 34 人 + 常勤講師 3。内訳は串本校舎（3 学級）25+2、古座校舎（1 学級）9+1
- ・ 校長は串本校舎にすることが多いが、必要に応じて両校舎間を行き来。
- ・ 両校地に副校長はおらず、教頭が「校舎長」の肩書で代決。分掌主任は両校舎に配置。

《行事等、及びそれに伴う生徒の移動》

- ・ 合同の行事は、芸術鑑賞会のみ。入学式、卒業式、体育祭、文化祭、始業式、終業式はそれぞれ別々に実施。（入学式、卒業式、始業・終業式での校長の移動は、開始時間をずらして対応）。授業での生徒の移動は一切なし。
- ・ 部活動に伴う生徒の移動は、シャトルバス(20 数名乗り)を毎日県費で 3 往復運行（考査期間中は除く）。経費は約 640 万円、平成 27 年度からは約 1,250 万円になる予定。

《教諭の兼務、及びそれに伴う教諭の移動》

- ・ 芸術と家庭科の教員が、曜日ごとに各校舎間を移動。（出張扱い。時間割を工夫）

《その他》

- ・ 学校の一体感醸成のために、校歌・校章を新たに作り、制服を同一のものにした。
- ・ 古座校舎は少ない教員数ながら、数学・英語で習熟度別展開授業を実施している。（持ち時間数がかかなり多くなるので、教頭も授業を行う）

真庭高等学校（岡山県）

1 沿革

H23.4 岡山県立落合高等学校（普通科、看護科、専攻科）と岡山県立久世高等学校（生産生物科、食品科学科）が合併統合。

2 学科と募集定員・一般選抜の志願倍率

校舎	学科	H26 募集 定員（人）	志願倍率 （H26）	H25 の在籍者（人）		
				1年	2年	3年
落合校地	普通科	80	0.45	58	59	68
	看護科	40	0.75	30	34	38
久世校地	生物生産科	35	1.17	29	34	33
	食品科学科	35	1.06	35	38	33

（H26岡山県全体の倍率 全日制1.16 普通科1.09 専門学科1.32）

3 各キャンパスの状況 【キャンパス間の距離 6.4 km】

(1) 落合校地（旧落合高校校舎）

住所 岡山県真庭市落合垂水 448-1

設置学科

・普通科、看護科、専攻科

(2) 久世校地（旧久世高校校舎）

住所 岡山県真庭市中島 143

設置学科

・生物生産科、食品科学科

4 卒業後の状況

(1) 主な合格先（過去5年間）

- ・ 国公 岡山大、静岡大、鳥取大、島根大、山口大 等
- ・ 私大・その他 中央大、立教大、京都産業大、立命館大 等

(2) 主な就職先

- ・ 日本郵政公社、真庭消防本部、事務、製造、販売サービス 等

5 部活動 体育系 9(8) 文化系 6(5) 計 15(13) ()は久世校地

・両校地の合同チームで活動

6 職員数 4学科、5学級、190人/学年 - 教員数 50人（校長、講師除く）

《学校概要》

- ・ 3年前に再編整備により校地制を導入。（導入には同窓会の反対があった）
- ・ 岡山県では「校舎制」ではなく、「校地制」と呼びならわしている。
- ・ 教員数は50人（教諭46＋常勤講師4）。内訳は落合校地（28+3）、久世校地（18+1）
- ・ 校長は月水木が落合校地、火金が久世校地での勤務。
- ・ 両校地に副校長配置（校長不在の曜日の代決を行う）。教頭は落合校地に1名配置。
- ・ 分掌主任（課長）は年度ごとに校地間でローテーション（学年主任も含む）。
- ・ 両校地で同じ制服を採用している。

《行事等、及びそれに伴う生徒の移動》

- ・ 合同の行事は、入学式、卒業式のみ。（大型バスで落合校地に移動）
- ・ 今年から、合同行事として1年次に久世校地で農業体験を実施している（1日）。
- ・ 来年は、落合校地での看護体験を実施する予定。
- ・ 授業での生徒の移動はなし。
- ・ 部活動に伴う生徒の移動は、中型バス（スクールバス）で週に2日間（月金）のみ送迎。県により予算化されている（72万円/年、38往復分） 実際は若干予算不足らしい

《教諭の兼務、及びそれに伴う教諭の移動》

- ・ 両校舎を兼務しているのは理科、芸術の教諭（普通教科は年により異なる）。時間割を工夫し、曜日で出勤する校舎を変わるようにしている。
- ・ 授業や部活動の移動の際は自家用車を使用。（出張扱い）

《その他》

- ・ 部活動の大会等は合同チームで出場。活動が活性化している。
- ・ 制度導入時は、生徒よりも教員が戸惑っていた。

阿蘇中央高等学校（熊本県）

1 沿革

H22.4 阿蘇高等学校（普通科、商業科）と阿蘇清峰高等学校（生物科学科、林業・農業土木科、社会福祉科）が統合。

2 学科と募集定員・一般（後期）選抜の志願倍率

校舎	学科	H27 募集 定員（人）	志願倍率 （H27）	H27 の在籍者（人）		
				1年	2年	3年
阿蘇キャンパス	普通科	120	0.55	65	80	65
	総合ビジネス科	40	0.14	23	35	19
阿蘇清峰キャンパス	農業食品科	40	0.45	29	37	25
	グリーン環境科	40	0.15	18	19	9
	社会福祉科	40	0.00	20	14	23

（H27 熊本県全体の一般（後期）倍率 全日制 1.03）

3 各キャンパスの状況 【キャンパス間の距離 3.1 km】

(1) 阿蘇キャンパス（旧阿蘇高校校舎）
住所 熊本県阿蘇市一の宮町宮地 2460
設置学科
・普通科、総合ビジネス科

(2) 阿蘇清峰キャンパス（旧阿蘇清峰高校校舎）
住所 熊本県阿蘇市一の宮町宮地 4131
設置学科
・農業食品科、グリーン環境科、社会福祉科

4 卒業後の状況（過去3年間）

(1) 主な合格先

- ・ 国公 九州大、広島大、東京学芸大、熊本大、佐賀大、鹿児島大 等
- ・ 私大・その他 同志社大、立命館大、帝京大、東海大 等

(2) 主な就職先

- ・ 自動車、電気、販売、福祉、ホテル、病院 等

5 部活動 体育系 17 文化系 15 計 32

6 職員数 5 学科、7 学級 280 人 / 学年 - 教員数 76 人

《校舎制高校の運営上、留意すべき点について》

- ・ 各校舎単位での運営体制をとる必要がある。そのため副校長が阿蘇清峰校舎に、教頭が阿蘇校舎に常駐し、校長は月・水・金は阿蘇清峰校舎、火・木は阿蘇校舎に常駐している（ただし、実際は校長は校舎間を移動していることが多い）。
- ・ 教務、進路、生徒指導、総務は各校舎にそれぞれ1人主任をおいている。
- ・ 両校舎合同での職員会議は年2回（年度当初、選抜試験前）だが、管理職、各分掌、各教科で、校舎間の連絡を密にしている。（週1回、合同の管理職の打ち合わせを行っている）
- ・ 時間割は一定条件のもと各校舎で作成した後に調整するが、摺合せが大変である。
- ・ 時間帯は同じだが、学科・コースによって総単位数（1週間当たりの授業コマ数）が異なっている。
- ・ 各学科が複数の類型を持ち、なおかつ総合選択制を実施しているため、選択科目等の関係でカリキュラムは複雑化する。

《生徒・職員の移動について》

- ・ 生徒の移動を伴うのは、授業（総合選択制）、合同行事、部活動等である。
- ・ バス会社との打合せや連絡・調整等、生徒の移動に関する業務を専門的に行う担当者が必要である（主幹教諭が担当）。

生徒の移動手段

授業（総合選択制）	毎週火・木	中型バス	引率なし（バス乗降時の点呼のみ）
合同行事	不定期	大型バス	引率あり
部活動	毎日	自転車 ・ 徒歩	阿蘇校舎の生徒は送迎が多いため、徒歩移動がほとんど

- ・ 入学式、卒業式の際は、保護者用のバスも準備する。
- ・ バスは年間計画をバス会社に提出して契約。変更分を含めて直近2ヵ月分の予定表を提出。変更については（事前に変更の可能性を連絡しておけば）当日朝まで対応してくれる。
- ・ バス使用料は県費（今年度1,400万程度）で、生徒負担は無し。
- ・ 部活動のための移動は、生徒各自で行う。ほとんどの生徒が30分程かけて徒歩で移動している。移動ルートのほぼすべてに歩道が設置されている。特に交通指導等はしていない。
- ・ 職員は、バスで引率する以外は各自で移動する。特に手当等は支給されない。
- ・ 両校舎を兼務する職員は例年3～4名（地歴科と芸術科）。移動のための時間割には配慮するが、曜日固定はしていない。
- ・ 職員会議や職員研修（両校舎合同）等、多くの職員の移動が必要な行事は、定期考査中の午後や長期休業中に設定している。
- ・ バス移動に要する時間は、点呼・乗車 移動 下車・点呼まで25分。その間、一方の校舎では清掃の時間を入れて対応している。

《合同行事の実施状況について》

- ・ 合同で行っている行事は、各式典（入学式・卒業式・始業式・終業式・対面式）、宿泊研修（1年次）、体育祭・文化祭、農業体験（田植え・稲刈り・収穫感謝祭）、修学旅行、芸術鑑賞会、ロードレース大会、クラスマッチ（年1回）と非常に多い。
- ・ 式典関係はすべて阿蘇校舎で行う（阿蘇清峰校舎の生徒が移動）。
- ・ 1年生の4月に宿泊研修、5月に体育祭と、年度当初に大きな合同行事を入れることで交流が広がり、学校としての一体感も醸成される。
- ・ 一時期合同行事が縮小されつつあったが、その重要性が認識され、昨年度からまた盛んに行われることとなった。

《諸業務について》

- ・ 合同の職員会議は年2回（再掲）。運営委員会も原則としてそれぞれの校舎ごとで行う
（阿蘇清峰校舎は副校長をトップとし、校長は参加しない）。
- ・ 分掌、教科の打合せは、基本的に電話とメールで行い、必要に応じて一方の校舎に出向く。
- ・ 学年の取りまとめとして、学年主任と副主任を別の校舎に置く。
- ・ 各種証明書は両校舎で発行できる（一部阿蘇校舎でのみ）。
- ・ 予算に関しては校舎ごとに積み上げたものを予算要求するが、必要に応じて校舎間で融通をつける。（事務長は阿蘇校舎常駐）

他県の校舎制の状況

※大津緑洋高校は平成26年2月、それ以外の高校は平成26年12月の調査

高校名	校舎間距離	合同行事・授業 (移動を要するもの)	生徒の移動手段等	教諭の移動状況	その他
岩ヶ崎高校(宮城県) 岩ヶ崎校舎 鷲沢校舎	6.7km	入学式、卒業式、文化祭、球技大会、部活動	各自で移動 バイク通学者が多いので、バイクある いは路線バス(中学生は市内100円)を 利用 各自で移動 卒業式のみ貸し切りバスを利用(PTA 費) 校外で実施する行事は現地集合 部活動、授業はバスを利用(朝夕各4 台、昼1台) 路線バスを契約、経費は年間約2,000 万円(県費)	2校兼務は公民、物理、家庭、体育 (各1人)の4人 週2日(曜日固定) 通勤手当が支給 2校兼務は音楽、書道(各1人)の2人 のみ 週2日(曜日固定)	管理職は 岩ヶ崎校舎:校長、教頭1人 鷲沢校舎:副校長1人 管理職は 岡本校舎:校長、教頭2人 山田校舎:副校長1人、教頭1人 管理職は 北校舎:校長、教頭1人 西校舎:教頭2人
飛騨高山高校(岐阜県) 岡本校舎 山田校舎	2.1km	入学式、卒業式、統一生徒会、学習成 果発表会、総合選択制授業(週2日)、 部活動	各自で移動 卒業式のみ貸し切りバスを利用(PTA 費) 校外で実施する行事は現地集合 部活動、授業はバスを利用(朝夕各4 台、昼1台) 路線バスを契約、経費は年間約2,000 万円(県費)	2校兼務は公民、物理、家庭、体育 (各1人)の4人 週2日(曜日固定) 通勤手当が支給 2校兼務は音楽、書道(各1人)の2人 のみ 週2日(曜日固定)	管理職は 岡本校舎:校長、教頭2人 山田校舎:副校長1人、教頭1人 管理職は 北校舎:校長、教頭1人 西校舎:教頭2人
和歌山北高校(和歌山県) 北校舎 西校舎	7.2km	新入生歓迎会、観劇会、体育祭(校外 の施設で実施) 体育系授業(週2回)、部活動	校外で実施する行事は現地集合 部活動、授業はバスを利用(朝夕各4 台、昼1台) 路線バスを契約、経費は年間約2,000 万円(県費)	2校兼務は公民、物理、家庭、体育 (各1人)の4人 週2日(曜日固定) 通勤手当が支給 2校兼務は音楽、書道(各1人)の2人 のみ 週2日(曜日固定)	管理職は 北校舎:校長、教頭1人 西校舎:教頭2人
海南高校(和歌山県) 海南校舎 大成校舎 (併せて分校2、定時制1)	8.1km	部活動以外は、年に1~2回の生徒会 交流のみ	各自で移動	2校兼務はなし	管理職は 海南校舎:校長、教頭1人 大成校舎:教頭1人 将来的に大成校舎が募集停止となる可能 性が高い
串本古座高校(和歌山県) 串本校舎 古座校舎	9.2km	部活動以外は、芸術鑑賞会のみ	シャトルバス(20数名乗り)を毎日3往 復運航 経費は年間約640万円(県費 来年度 から経費増の予定)	2校兼務は芸術(2人)家庭(1人)の3 人 曜日固定 出張扱い	管理職は 串本校舎:校長、教頭1人 古座校舎:教頭1人 (教頭は「校長」として代決可)
京都八幡高校(京都府) 北キャンパス 南キャンパス	2.9km	入学式、卒業式、体育祭、文化祭、マ ラソン大会、部活動	各自で移動	2校兼務はなし	管理職は 北キャンパス:校長、副校長2人、教頭1人 南キャンパス:副校長1人、教頭1人
井原高校(岡山県) 北校地 南校地	0.7km	入学式、卒業式、体育祭、始業式、終 業式、講演会、部活動	各自で移動(徒歩)	2校兼務は国語、音楽(各1人)の2人 のみ 曜日固定なし	管理職は 北校地:校長、副校長1人 南校地:副校長1人 校長は北校地3日、南校地2日
真庭高校(岡山県) 落合校地 久世校地	6.4km	部活動以外は入学式、卒業式のみで あったが、今年度から農業体験、来年 度から看護体験を実施	入学式、卒業式は大型バスを利用 部活動の移動は、週2日スクールバス を運行(それ以外の日は各校地で活 動) 経費は年間72万(県費)	2校兼務は理科、芸術 曜日固定 出張扱い	管理職は 落合校地:校長、副校長1人、教頭1人 久世校地:副校長1人 校長は落合校地3日、久世校地2日、副 校長は校長不在時の代決可
阿蘇中央高校(熊本県) 阿蘇キャンパス 阿蘇清峰キャンパス	3.1km	入学式、卒業式、始業式、終業式、体 育祭、文化祭、クラスマッチ、農業体 験、必要に応じて学年集会、総合選択 制授業、部活動	部活動は各自で移動 行事、授業(2・3年生各週1日)の移 動は貸し切りバスを利用 経費は約700万円(県費 来年度から は経費大幅増の予定)	2校兼務は地歴・公民、体育、芸術 (各1人)の3人 曜日固定 手当は特になし	管理職は 阿蘇キャンパス:校長、教頭1人 阿蘇清峰キャンパス:教頭1人
大津緑洋高校(山口県) 大津一水産 日置キャンパス 水産キャンパス	大津一日置 9.4km 大津一水産 1.6km 日置一水産 10.2km	学習成果発表会、農業体験、航海体 験、野球部1回戦全校応援、部活動	部活動の移動はバス2台を運行 経費は年間約4,000万円(県費)	2校兼務はなし 部活動、行事での移動は出張扱い	管理職は 大津キャンパス:校長、副校長1人 日置キャンパス:副校長1人 水産キャンパス:副校長1人、教頭1人 校長は大津キャンパス3日、日置キャンパス、水 産キャンパス各1日 副校長(校長格)が一部決裁可

新高校設置準備委員会設置要領

平成14年10月21日
佐賀県教育委員会教育長決定
一部改正 平成17年4月 1日
一部改正 平成18年7月12日
一部改正 平成21年4月 1日
一部改正 平成27年4月 1日

(設置)

第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校(以下「新高校」という。)の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。

- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関すること
- 二 新高校の施設・設備に関すること
- 三 新高校への円滑な移行に関すること
- 四 前号に掲げるもののほか、検討を要すること

(組織)

第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校(以下「再編等対象校」という。)の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。

- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
- 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

(会議)

第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。

- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(事務局)

第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び県立高校再編整備推進室に置く。

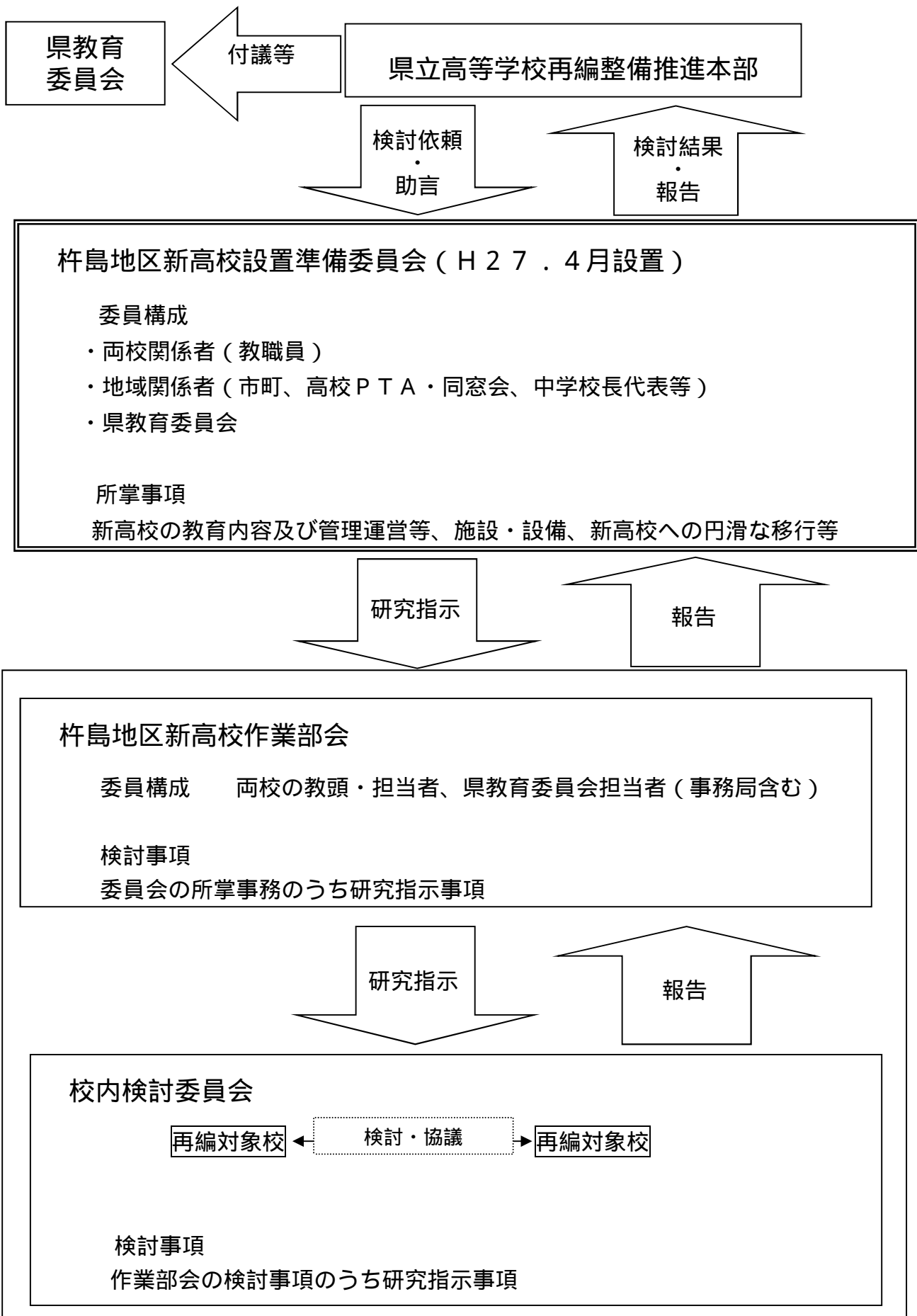
(補足)

第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。

別表（第1条関係）

委員会名	再編等対象校
伊万里地区新高校 設置準備委員会	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
杵島地区新高校 設置準備委員会	白石高等学校、杵島商業高等学校
新葭木高校 設置準備委員会	葭木高等学校
鹿島地区新高校 設置準備委員会	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
嬉野地区新高校 設置準備委員会	塩田工業高等学校、嬉野高等学校

杵島地区新高校設置に向けた検討体制



資料7 杵島地区新高校設置準備委員会委員構成

No.	所属・職名	氏名	備考		
1	白石高等学校学校校長	荒谷 弘幸	委員長・学校関係者		
2	杵島商業高等学校校長	木村 もと	副委員長・学校関係者		
3	白石高等学校教頭	本告 靖之	学校関係者		
4	杵島商業高等学校教頭	北島 直幸			
5	大町町教育長	前川 幸治	大町町	市町関係者	
6	大町町生活環境課長	小木 誠			
7	白石町教育長	江口 武好	白石町		
8	白石町副町長	百武 和義			
9	武雄市教育長	浦郷 究	武雄市		
10	江北町教育長	赤坂 章	江北町		
11	白石高等学校 同窓会代表	川崎 光春	地元関係者		
12	杵島商業高等学校 同窓会代表	黒岩 勝弘			
13	白石高等学校 P T A代表	溝口 哲也			
14	杵島商業高等学校 P T A代表	田中 浩吉			
15	白石町立白石中学校校長	平川 年明	中学校関係者		
16	武雄市立川登中学校校長	植松 和彦			
17	副教育長（教育情報課長）	福田 孝義	県教委関係者		
18	教育政策課長	八谷 幸浩			
19	教職員課長	福地 昌平			
20	学校教育課長	松尾 敏実			
21	保健体育室長	三上 智一			
22	教育支援課長	源五郎丸 靖			
23	県立高校再編整備推進室長	甲斐 照章			
24	県立高校再編整備推進室 教育企画監	岩村 彰			
事務局	白石高等学校教諭	本村 邦彦			
		副島 博孝			
	杵島商業高等学校教諭	松浦 昌彦			
		中村 桂子			
県立高校再編整備推進室 企画主幹	上赤 真澄				
県立高校再編整備推進室 企画主査	椛島 秀樹				